



市長と

車座トーク

第1回 高島学区（概要）



開催日時 2016年（平成28年）11月7日（月）

19:30～21:00

開催場所 高島公民館

参加者数 15人

次第 枝廣市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・田尻町には有線放送があり、その機器が老朽化などの要因で地域内において、聞こえない、聞き取りにくい状況があり、機器の更新を考えている。
- ・高島小学校の広いグラウンドを利用して、子どもが参加する行事の企画を一緒に考えて欲しい。
- ・田尻民俗資料館は、各家々にあった古い民具、道具を提供してもらい資料館を設置しているが、築90年経過した従前の村役場を利用しているため、空調設備がない、耐震もない、また、ボランティアの運営で後継者（若者）がいない。
- ・PTAで、通学路の危険個所の洗い出しをしている。今まで県道で事故が多かったが、ガードレールの設置などで事故が減っている。感謝している。ただ子どもの目線で見ると、大き

な道では緊張して通っていても、狭い道に入り、家に近づいてくると安心する。しかし、小川などもあるため、安全対策について考える必要があると感じている。

- ・中学校給食について温かい栄養のある給食を実施して欲しい。
- ・小学校（教育委員会）のメール配信で、保護者にアンケートをした結果、子どもの医療費助成の拡充をして欲しいとの意見が多かった。就学後も病院にかかることが多いため、段階的にでもよいので、年齢を引き上げて欲しい。
- ・子ども会に加入している家庭が少なくなっている。子どもころから町内会の行事に参加するような子どもに育てたいと思っている。子ども会の会費を町内会から納めるようにしているなど対策はしているが、苦慮している。情報発信などしてもらえないか。
- ・高島幼稚園は、園児が11人です。他の地域ではこども園などに移行している。公立幼稚園を維持して欲しい。人数が少ないからという理由でなくさないで欲しい。
- ・杏は福山ブランドの農産物に認可されているが、生産者の高齢化のため、生産量が減少している。
- ・菜の花は、観賞用と食用で35a、30万本植えている。種まき、除草などを33人のボランティアの支援で行っている。CDも製作しており、もっと盛り上げていきたい。
- ・オオムラサキ（国蝶）の会では、年々羽化も増え今年150匹、来年は300匹を目指している。
- ・地域で子安農道の整備をするために、軽トラックが通れる道があれば、作業がしやすくなるので、道が広くなれば良いと思う。
- ・田尻の空き家を利活用して、若者が3人住んでいる。田を耕して生計をたてていくのは、大変だと思う。支援するようなことができないか。
- ・福山城に行ってもお土産を買うところがない。駅と城を一体化するような観光客の流れができれば良いと思う。
- ・農業の後継者不足、耕作放棄地がある。景観農作物より換金できる作物はないかと考えている。給食に田尻の農作物を使い、子ども達に食べて欲しい。

<市長のまとめ>

- ・地域振興の成功している地域には、共通していることが3つある。
 - 1 本物を持っている。見つけている。
 - 2 熱心な人がいる。
 - 3 ストーリーがある。泣き笑いのストーリーがあること。
- ・補助金頼みの地域づくりは途中で挫折し、長続きしない。
- ・田尻は、地域づくりに成功している。地域と行政の役割分担ができていると思う。
- ・有線放送は、届くべき所に届いているかどうかという所がきこえないのか、地域で検証してみる必要がある。
- ・地域でどのような企画を考えているのか、一緒になってグラウンドの活用を考えていきたい。
- ・田尻民俗資料館については、今後順次整備していく交流館の一角に展示するコーナーを設ける案も考えられる。それまでの間をどう乗り切るか、一緒に考えましょう。
- ・中学校完全給食は実現したいと思っている。食育も大事、一挙にはいかないが着実にできる

だけ早く進めたい。

- ・少子化の時代、医療費助成は、国の問題ではないかとも考える。国が打ち出す方針を待っているが、国の意思表示がない場合には、そっぽを向く話ではない。
- ・サッカーを子ども会活動でするとか、地域のスポーツを自由に選べるなど、スポーツで子ども会を維持できるかなど、どういう働きかけができるか考えてみたい。
- ・地域の公立幼稚園が子どもに就学前の教育の場をどう与えられるか、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。
- ・杏については、大学との連携、若い発想を入れていくといい。市立大学との連携も考えられる。
- ・子安農場の整備については、自分達が作業するためとは素晴らしい。地域のことは地域でしたい。そこに軽トラックが入れるようになればとのことなら、考えさせてもらう。
- ・空き家を利活用して住んでいる若者3人について、彼らは自分でやりたいと思っているかもしれない。どういう手の差し伸べ方をするかよく考えたい、支援で彼らの思いをゆがめないようにしたい。
- ・福山としてのお土産は確立していない。駅と城と土産が融合した大きな顔づくりの提案として受け止めさせていただく。

<地域からのまとめ>

- ・市長は、まちづくりの挑戦を言われていた。その中でまず市民に足を運んで、即実行を言われていた、それが今日の企画ではないかと受け止めています。
- ・子どもたちが田尻に生まれて育ってよかった、また離れてもふるさとを誇りに思うまちづくりの推進をしていくために、地域の皆さんの力をお借りしたいと始めた。
- ・行政にやってもらう前に地元が何をやるべきかを考えた。十分に行政とコミュニケーションを図ることで、田尻でやるべきこと、モデル地としてやっていくことなどができてきた。
- ・市長さんには、スピード感を持って行政運営をやっていただきたい。これを機に、より以上に御尽力をいただきたい。